

すぎたに い せき 20. 杉谷遺跡

所在地：福井市杉谷町

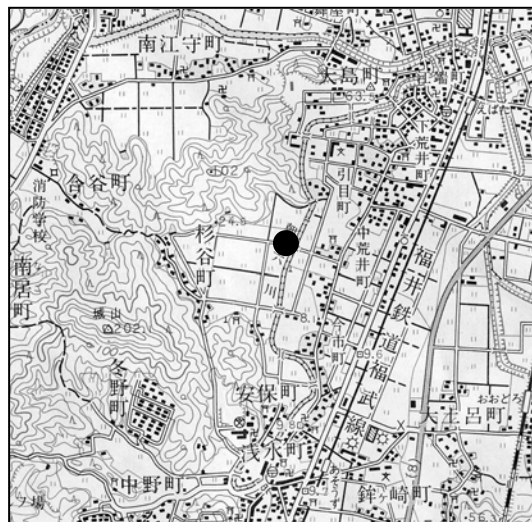
調査原因：一般県道清水麻生津線道路改良工事

調査期間：平成 25 年 5 月 1 日～6 月 28 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：270 m²

時代：弥生時代末



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 杉谷遺跡は福井市杉谷町の北部および今市町の西部にあり、浅水川水系の朝六川左岸一帯に広がる遺跡です。縄文時代から中世にかけての遺物が分布することで知られ、県道改良工事に伴い、遺跡の一部が破壊されることから、記録保存のための発掘調査を実施しました。

今回の調査区は遺跡範囲の東端にあたります。現地の調査時の状況は水田で、前年度の試掘調査では弥生・平安時代の土器が見つかりました。

調査の結果、弥生時代末の旧河川あるいは沼の一部と見られる、落ち込み地形を確認しました。以下、概要を記します。

遺構 東西幅約 40m弱、深さ 30～60 cm以上にわたって、広くかつ緩やかに落ち込む地形を確認しました。落ち込みはほぼ同じ土で埋まっています。沼地や湿原など水辺によく見られる植物遺体の堆積は見られませんでした。流木の破片などが若干混ざっていました。遺物は東・西両岸に偏って出土する一方、中央部ではほとんど出土しませんでした。また、西岸付近では大量の炭などとともに、火を受けて一部が煤けた、あるいは黒く焦げた土器の破片が多数出土しました。

調査区の形状が細長いので、落ち込みの具体的な形状はよくわかりませんが、周辺の状況から判断して、旧朝六川の支流とその周辺の沼地の一部を検出したものと考えます。

遺物 遺物は落ち込みの東・西両岸に集中し、特に西岸で多く出土しました。内訳は弥生時代末の土器がほとんどですが、平安時代の須恵器なども少し出土しました。

まとめ 落ち込みの両岸にのみ遺物が集中すること、特に西岸に多量の炭や焼け焦げた土器片が多く出土したことから、出土した土器は他所から流れ込んだものではなく、当地に直接捨てられた可能性が高いと考えます。つまり、弥生時代末当時、調査区のごく近くにムラがあつて、要らなくなった土器、おそらくは煮炊きなどに使用して壊れてしまった土器を、炭などとともにゴミとして廃棄したと推測します。

(中森敏晴)



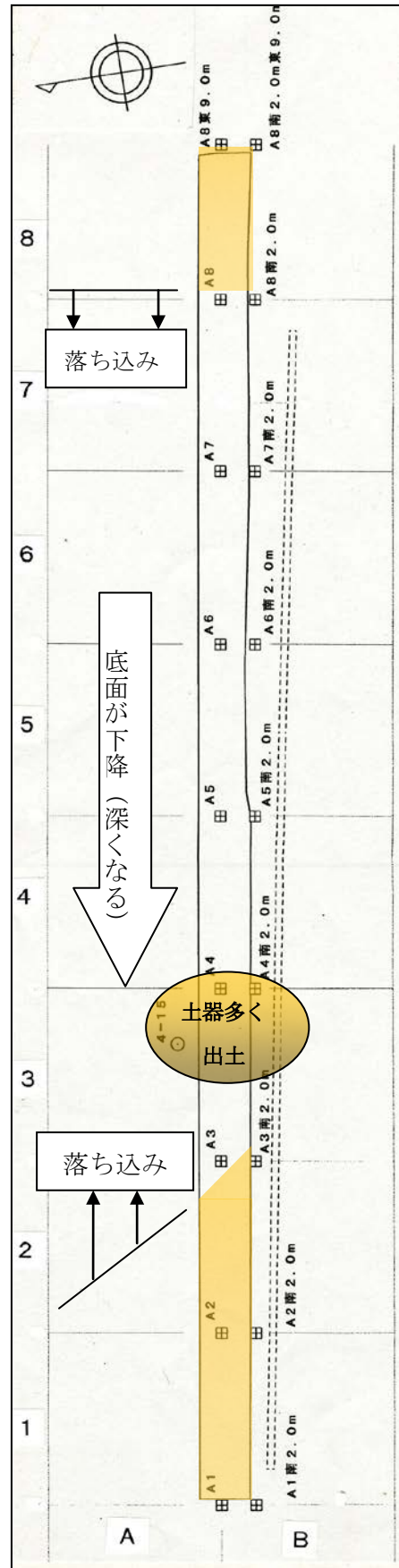
調査区全景（東から）



落ち込み 東岸付近土器集中（北西から）



落ち込み 西岸（北から）



調査区略図